



箱根往路・6区を力走する上野さん  
(写真提供/國学院大学広報課)

上野智幸さん

(國学院大学3年・四日市)

# 箱根6区を力走

第88回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)に上野智幸さんが國学院大学の6区を力走り、2年連続シード権獲得の糧をつなぎました。

「初めて選手に選ばれた感じがよいよ来たなという感じでした。夏に入る前ぐらいから監督に「6区の候補」と言われていたので、ずっと6区のイメージは作っていました。でも7月、夏合宿で故障してしまい結局、復帰が10月になりトラック(陸上競技場)のレースは控え、ひたすら箱根に向けて調整しました。1レースを振り返って、2日目の一番最初の区間で、チームの流れを作る大切なポジションなので、結構プレッシャーでした。コースは最初5キロ登って、そして下ってラストは平地。登りで追い込みすぎても下りに影響するので、監督とも「慎重に行こう」と話をしていました。下りで



profile

中学校まではサッカーに取り組む。中学の特設駅伝チームで県大会5位入賞。高校時代は800mと1,500mで県高総体1位。今回、箱根では第6区(箱根一小田原20.8km)を1時間00分36秒(区間12位)、総合順位10位で糧をつなぐ。葛巻小～葛巻中～盛岡工高～國学院大学。21歳。173<sup>cm</sup>、55<sup>kg</sup>。



葛巻中学校で指導した小原眞一先生(現金ヶ崎小学校校長)

盛岡工業時代も日報駅伝など応援に行きましたが、よく頑張っていました。中距離専門で頑張っていたようなので、はじめは箱根に出るとは思っていませんでした。

今回シード権をとったので、今度はキャプテンとして、チームを引っ張って、頑張る姿を見せてください。箱根駅伝で教え子が走るのが夢でした。以前の中学校でも駅伝を指導しましたが、なかなか実現しませんでした。やっとかなえてもらい、本当にありがとう。

自分のには追い上げましたが、攻めすぎてラスト3キロは失速というか、ちょっと納得いかない結果になりました。故障で夏を越えていないので不安もあったし、今回の走りは60点ぐらいです。1チームとしての成績、昨年初シード(10位以内・予選会免除)をとって、前回越えの8位以内が目標でしたが、結果的に10位でしたが、2年連続でシードをとれたことは良かったと思います。

「走り始めたきっかけ、中学3年生の時、県中駅伝で入賞(5位)できたことで高校から誘いを受け、本格的に競技に取り組みました。高校時代は800m、1500mの中距離中心で、スピード

真ん中に、バランス良く書くことを心がけ、集中して取り組まれました。ちょっと離れて見ると、曲がっているのがすぐにわかってしまうので。この作品は全部で5枚にわかれていますが、1枚書き上げるのにだいたい2時間ぐらいかかりました。トータルで約1カ月間、日によって文字の太さに違いがでないように気をつけました。その間、合宿がありましたし、家でも夜遅くまで頑張りました。

「書道に取り組むきっかけ、小学校のとき、町の芸術作品展や県の書写書道コンクールなどでいろいろな賞をいただき、とってもうれしかったことを覚えています。書道の魅力は、書いているとき無心になれるというか、落ち着くところなんです。そして

を獲得。1年の夏、前田さんが監督に就任し、「意識づくり」に取り組み、監督は駒澤大学出身なので駒澤大学の胸を借り合同合宿をさせていたでています。強い選手と走りながら意識を高く持たせるというか、そういう部分で強くなっていると思います。今後の目標、新チームのキャプテンになりました。今年、三大駅伝(出雲・全日本・箱根)のうち全日本は出場を逃しているのですが、まずは三大駅伝全てに出場を目指して、そしてもう一度箱根でシード権をとりたいたいと思います。自分の中では、また6区を走れたらと思うのですが、他の区間を任せられなくてもしっかり走りたいです。

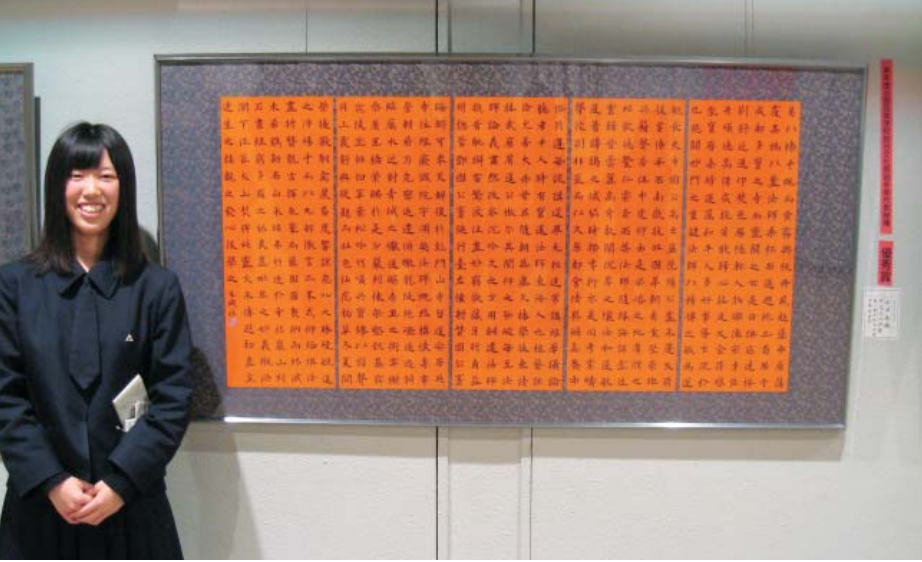
# Zoom-up

安田朱織さん

(県立福岡高等学校2年・市部内)

## 書道で全国へ

第34回県高校総合文化祭の書道部門で優秀賞に安田朱織さんの楷書作品「道明法師碑」が選ばれ、今年8月富山県で開催される全国高校総合文化祭に出品します。



優秀賞受賞作品「道明法師碑」と安田さん(写真提供/県立福岡高校)

「受賞の感想、全然自信がなかったのですが、優秀賞、そして全国高文祭への7人の出品者に決まりとってもらい嬉しいです。

実は、書体のうち「行書」が私として書きやすく得意なのですが、全国を目指すならということと先生と相談し、初めて「楷書」にチャレンジしてみました。この作品に取り組んで細字をとにかく



profile

中学校ではバレー部に所属しながら、遠藤さんの書道教室に通う。日本習字は最高位の八段。昨年11月の第34回県高校総合文化祭書道部門には48校から1,252点の応募があり、最優秀賞に次ぐ優秀賞6点の中に選ばれる。冬部小～統合により葛巻小～葛巻中～福岡高。17歳。



書道教室で指導した遠藤玲子さん(元町)

新聞で朱織さんの県高文祭の入賞を知りとってもうれしくなり、県民会館での作品展示を見に行きました。かなり根気や集中力が必要だったんじゃないかと思いました。中学生のとき私の教室に通い始めてくれましたが、そのときすでにきちんと基本(とめ、はねなど)ができていて感心しました。全国に向けてこのまま一生懸命取り組み、頑張ってください。そして、ずっと書道を続けていってほしいです。

「書道に取り組むきっかけ、小学校のとき、町の芸術作品展や県の書写書道コンクールなどでいろいろな賞をいただき、とってもうれしかったことを覚えています。書道の魅力は、書いているとき無心になれるというか、落ち着くところなんです。そして

何よりも書き終わったあとに達成感があることです。中学生のときは、遠藤さんご夫婦の書道教室で教えていただきました。そのころ福岡高校の書道部展を見に行く機会があって、書道をやるならここかなと思ってこの高校を選びました。

「書道に取り組むきっかけ、小学校のとき、町の芸術作品展や県の書写書道コンクールなどでいろいろな賞をいただき、とってもうれしかったことを覚えています。書道の魅力は、書いているとき無心になれるというか、落ち着くところなんです。そして

書道教室や今、高校への通学も母が送り迎えをしてくれているので、本当に感謝しています。今回の受賞も母が一番喜んでくれました。全国高文祭の目標、全国に出品させていただけでいいので、最後までしっかり取り組みたいです。そして賞をとれたらいいなと思っています。